

## 保井コノを支援した研究者たち

### 岩川友太郎 (1855-1933)

動物学者。東京外国語学校、東京開成学校予科を経て、東京大学理科大学生物学科へ進み、モースに師事。東京帝国大学理科大学動物学科卒業(1881)。貝類研究に取り組み、日本貝類学の道を拓いた。日本最初の生物学英和对訳辞典「生物学語彙」や初の採集法のハンドブックともいべき「動植物採集標本製作法」を出版した。女子高等師範学校教授(1898-1925)。この頃の学生は大学入学の頃には英語、独語などの外国語を習得しており、外国人の講義を受けるのに支障はなかった。



### 三宅驥一 (1876-1964)

同志社理科学校大学部卒業(1896)、東京帝国大学理科大学植物学科選科終了(1899)。細胞学、生理学、海藻学、遺伝学を研究。若年にして米国コーネル大学に学び(1900)、後にドイツのボン大学で、シュトラスブルガーに師事し(1902)、細胞分裂の研究にたずさわる。アサガオの研究を進め、これを世界に紹介した。東京帝国大学農学部教授(1932-37)



### 矢部吉禎 (1876-1931)

東京帝国大学理科大学植物学科卒業(1900)。植物学者。清朝政府の招きにより、北京大学師範館教習として北京に入る(1904)。河北省の小五台山、山西省の五台山、北京近くの山々に登り植物を採集。また南満州を旅行し『南満州見聞録』『清国植物漫録』を発表。植物分類学の講師として、東京女子高等師範学校に勤務(1910-1929)、保井の先輩として働く。



### 藤井健次郎 (1866-1952)

東京帝国大学理科大学植物学科卒業(1892)。欧州留学(1901)、ドイツではシュトラスブルガーに植物細胞学、ゲーベルの許で植物形態学を学び(ここで英国人ストーブス女史に会う)、イギリスでは、オリバ、スコット、ワイスらに植物解剖学、植物化石学を修めた。東京帝国大学教授(1911-27)。細胞遺伝学者。日本最初の「遺伝学講座」を担当。日本の細胞学、遺伝学の発展の基礎を築いた。1927年『キトロギア』創刊。編集主幹となる。



## 吹田 勇 (1913-1984)

東京帝国大学理学部植物学科卒業 (1936)。細胞遺伝学講座の助手。花粉培養により花粉管の趨化性、管内における雄核の有糸核分裂を位相差顕微鏡で生体観察した。コルヒチン、アセナフテン等の核分裂に及ぼす影響、広島、長崎の原爆によるムラサキツユクサの変異など多くの研究結果を、『キトロギア』や『植物学雑誌』に発表している。

## 木原 均 (1893-1986)

北海道帝国大学農学部卒業 (1918)。京都大学教授。国立遺伝学研究所所長。  
財団法人木原生物研究所を創立。文化勲章受賞。遺伝学者。

## 篠遠喜人 (1895-1997)

東京帝国大学理学部植物学科卒業 (1920)。遺伝学者。キトロギア主幹 (『キトロギア』創刊の時、藤井健次郎を助けて、どのような雑誌にするかを検討した)。東京帝国大学教授。国際基督教大学学長。カリフォルニア国際大学名誉教授。紫綬褒章受賞。

## 和田文吾 (1900-1988)

東京帝国大学理学部植物学科卒業 (1925)。東京大学教授 (1961)。藤井健次郎の弟子 (藤井の後の講座を引継ぐ)。『キトロギア』の編集に携わる。細胞学、遺伝学者。

## 田中信徳 (1910-1996)

東京帝国大学理学部植物学科卒業 (1935)。東京大学教授 (1961-71)。藤井健次郎の弟子 (和田文吾の後の講座を引継ぐ)。『キトロギア』の編集・事務に携わる。細胞学、遺伝学者。

(三木寿子 記)